



# 保守点検のため、日野川堰のゲートを倒伏しています。

平成26年10月1日(水)に、保守点検のため日野川堰のゲートを倒伏<sup>とうふく</sup>しました。  
日野川河川事務所では、毎年10月にゴム製のゲートを倒伏し「ゴムが傷んだり穴が開いていないか」  
「空気を送り込む機械に異常がないか」など1ヶ月かけて点検を行い、堰の機能維持と構造物の長寿命化を  
図ることができるよう取り組んでいます。

## 【日野川堰倒伏過程】



隣のゲートも  
しぼんできました。



空気を抜き、5つある  
真ん中のゲートから  
しぼんでいきます。



全て倒伏し、下流に水が  
勢いよく流れていきます。



※ 日野川堰については、次ページにて概要を掲載しております。



# 日野川堰について

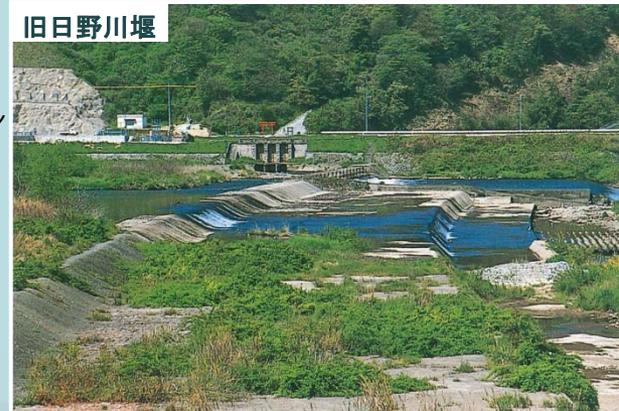
## 【日野川堰の概要】

日野川堰は、ゴム引布製起伏堰（空気式）の可動堰として日野川河口から約4kmの位置に平成5年度に完成しました。

ゴム引布製起伏堰とは、材質がナイロン織布と水密性を保つゴムとで構成された厚さ5.5m/mの左下図の様な円形状のものを空気で膨張させた堰です。普段はゴム袋を風船のように膨らませて水を堰止め、洪水時には空気を抜き底につぶして洪水を流す構造です。ゲートの断面は直径2.6mです。

日野川堰の全長は290mで、両岸に魚道（ぎょどう：魚の通り道）が一カ所ずつあります。

日野川と法勝寺川の水をそれぞれの取水口から取り込み、米川用水を通り弓浜半島へ農業用水を安定的に供給すると共に、米子市内を流れる旧加茂川の浄化用水確保に利用されています。



旧日野川堰は、昭和8年に竣工したインド型と呼ばれるコンクリート製の固定堰で、以来60年にわたり米川用水の取水堰として機能を果たしてきましたが、河川の流下能力が不足していること及び年数が経過していることに鑑み、可動堰に改築しました。

## ゴム引布製起伏堰の構造

